

草の根通信

Vol.80 (2014年9月16日発行)



サンディエゴ・シーワールド

P12 事務局だより

サンディエゴこぼれ話

P12 協賛企業一覧

平成25年度寄附協賛企業一覧



P10 協賛企業訪問シリーズ
第三回 「株式会社 永谷園」



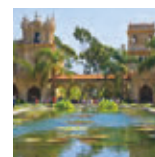
P08 寄稿「万次郎と東一郎」その②
ジョン万次郎・江東の会 塚本宏



P06 寄稿「復元された唯一の捕鯨船
チャールズ・W・モーガン号を訪ねて」
CIE 評議員 北代 淳二



P04 日米草の根交流サミット2015は大分で！



P03 日米草の根交流サミット2014・サンディエゴ大会
まもなく開催！分科会プログラム紹介



次の花を咲かせよう。

世界を舞台に多岐にわたる分野で、
様々なビジネスを創造してきました。
それでも、まだまだ成長過程。
人のため、社会のために、
まだ見ぬ花を咲かせていきたい。
私たちはこれからも創造し続けます。

すべては、
ひとつの思いから。

www.mitsubishicorp.com

 三菱商事

サンディエゴ大会、まもなく開幕!

日米草の根交流サミット2014・サンディエゴ大会まもなく開催!

分科会プログラム紹介

2014年のサンディエゴ大会は9月23日開幕です。約170名の方々が日本からサンディエゴに向けて出発します。現地での分科会のプログラムも事務局に到着しました。以下、大凡の内容をご紹介します。

T-1. バルボア・パーク分科会

9/25

- ・アルカザール庭園
- ・国立歴史博物館
- ・科学博物館、歴史博物館訪問
- ・サンディエゴ美術館でツアー、ティムケン博物館

9/26

- ・オールド・グローブ・シアター見学
- ・サンディエゴ人間博物館
- ・民芸博物館・植物庭園散策
- ・アートと宇宙博物館、自動車博物館など見学

T-2. ビジネス分科会

9/25

- ・サンディエゴ・ガス&エレクトリック社訪問
- ・京セラ・インターナショナル訪問
- ・サンディエゴ空港訪問(裏側探訪)
- ・コンベンション・センターをツアー

9/26

- ・クアルコム社訪問
- ・ハラス訪問
- ・協和発酵キリン訪問

T-3. 料理とお酒分科会

9/25

- ・シーブリーズ農園見学・水耕栽培農園見学
- ・バーナードワイナリー見学と試飲
- ・オルフェアワイナリー訪問

9/26

- ・ポップバズで新鮮なシーフード試食
- ・スーパーで食材の買い出し
- ・リトル・イタリーのキッチンで昼食とマルガリータ作り
- ・ライトニング・ビール醸造所

T-4. 歴史分科会

9/25

- ・アルカザール庭園・パリサデス見学
- ・ホートン・ブラサ徒歩ツアー
- ・ガスランプクォーターの日本人街ツアー

9/26

- ・カブリロ・ナショナルモニュメント
- ・セラ博物館見学・オールドタウンでメキシコ料理
- ・オールドタウン散策とショッピング



ミリタリー分科会



バルボアパーク分科会

T-5. ミリタリー分科会

9/25

- ・サンディエゴ海軍基地見学
- ・海兵隊兵員募集センター見学
- ・ソルダート山戦没者慰霊場

9/26

- ・ミラマー海兵隊航空基地見学
- ・ミッドウェイ博物館見学

T-6. 自然満喫分科会

9/25

- ・トリーパインズ州立公園のガイレミング散策
- ・ソルダート山戦没者慰霊場へ
- ・カヤック体験

9/26

- ・フェリーに乗船してコロナドへ
- ・レンタルバイクでサイクリング
- ・バーチ水族館見学
- ・ラ・ホヤでとの観察

L-1. コロナド地域分科会

9/25

- ・コロナド歴史博物館
- ・コロナド・ローン・ボウリング場でレッスン

9/26

- ・コロナド海軍基地のトレーニング場と航空母艦見学
- ・自由にゴルフやレンタ・サイクルなどのアクティビティ

普代村／広野町中学生プログラム

9/25

- ・サンディエゴ・ガス&エレクトリック社訪問
- ・京セラ・インターナショナル訪問
- ・サンディエゴ州立大学サンディエゴ校見学、留学生と交流

9/26

- ・サン・デギート高校訪問、日本語教室参加
- ・広野町のコーラス披露、普代村の七頭舞披露とワークショップ・部活参加など



自然満喫分科会



歴史分科会

日米草の根交流サミット2015は大分で！

日米草の根交流サミット2015は大分で！



【写真】前列左より
 浜田博別府市長(実行委員会顧問)、
 釘宮磐大分市長(実行委員会顧問)、
 廣瀬勝貞大分県知事(実行委員会顧問)、
 姫野清高大分県商工会議所連合会会長(実行委員会委員長)、
 他実行委員・監事の皆さん

来年2015年の日米草の根交流サミット大会が、7月7日(火)～13日(月)にかけて、九州の大分県で開催されることになりました。

別府、湯布院に代表される温泉で知られているところだけに、サミット大会の名称も「おんせん県おおいた大会」とズバリそのものとなります。

8月20日(水)には、廣瀬大分県知事、釘宮大分市長、浜田別府市長ご出席のもと、実行委員会の設立総会が大分県庁で開催され、来年の大会に向けて第一歩を踏み出しました。

大分県は昔の豊前の国南部と豊後の国からなっていますが、鎌倉から室町時代にかけて、大友氏が豊後の守護となり、キリシタン大名として有名な大友宗麟の代に九州の大半を支配すると共に、交易による南蛮文化が花開いたところでした。江戸時代に入ってから、8藩に分立したことから、各地に特色のある文化を生んでいるのが大きな特徴といえます。

サミット大会は、現在のところ別府市でオープニング・セレモニーとレセプションを、大分市でクロージングとフェアウェルパーティを検討しています。

また、ホームステイを含む地方分科会の開催候補地としては、大分市、別府市の他、武家屋敷が信じられないほどそっくり現代に残っている杵築市、滝廉太郎が「荒城の月」の構想を練った岡城跡のある竹田市、昭和の町を復元した豊後高田市、一際古い歴史を有する日田市、福沢諭吉を輩出した中津市、豊富な海の幸・山の幸に恵まれた佐伯市、城下町の街並みが色濃く残る臼杵市、美しい湾沿いに面する津久見市、全国4万余社を数える八幡宮の総本宮のある宇佐市など11市があげられており、アメリカ人参加者の興味を大いにかきたてることは間違いありません。

【大会スケジュール(予定)】

月 日	スケジュール
7月7日(火)	夜 : 大分 着 (別府市内ホテル泊)
7月8日(水)	終日: ローカルツアー 夕方: オープニング式 (別府市内ホテル泊)
7月9日(木)	午前: 地域分科会へ出発 午後: 地域分科会(地域交流プログラム)の実施 (宿泊: ホームステイ)
7月10日(金)	終日: 各地域分科会(地域交流プログラム)の実施 (宿泊: ホームステイ)
7月11日(土)	終日: ホストファミリーとの交流 (宿泊: ホームステイ)
7月12日(日)	午前: ホストファミリーとの交流 午後: 大分市へ移動、県立美術館の見学 夕方: クロージングセレモニー (大分市内ホテル泊)
7月13日(月)	午前: 大分 発

最近、地球って小さくなった？

ANA HANEDA

世界10都市大增便!

ANAの羽田国際線がついに世界10都市大增便! 羽田から海外、がいよいよ常識になってきました。行きも近い、帰りも近い。これは快適としか言いようがありません。日本のために、あなたのビジネスのために、羽田の国際化、どんどん進みます。

【新規就航都市】	バンクーバー / ハノイ	【アジア】	マニラ / ジャカルタ / バンコク / シンガポール
【ヨーロッパ】	パリ / フランクフルト / ミュンヘン / ロンドン	いよいよ3月30日から	

ANA Inspiration of JAPAN | A STAR ALLIANCE MEMBER 

最高評価「5スター」を2年連続で獲得。
ANAは日本で唯一の5スターエアラインです。



復元された唯一の捕鯨船 チャールズ・W・モーガン号を訪ねて

北代 淳二

万次郎を救助したジョン・ハウランド号と同時代、太平洋で活躍した捕鯨船チャールズ・モーガン号が復元され、今年6月末から7月初旬にかけてニューイングランドのゆかりの港を訪ねる航海をしました。そのモーガン号に乗船した北代淳二CIE評議員からの寄稿と写真です。



万次郎は漂流から帰国までの10年のうち半分以上を捕鯨船の上で暮らしました。

ホイットフィールド船長の家族の一員としてマサチューセッツ州フェアヘーブンに住んだのは丁度3年でした。その前のアメリカに来るまでのジョン・ハウランド号の生活が、約1年10ヶ月。そしてフェアヘーブンで教育を受けてから船員として乗り込んだフランクリン号の航海が、約3年4ヶ月。合計すると捕鯨船の生活は実に5年2ヶ月になり、地上の暮らしよりもずっと長かったのです。

従ってアメリカ捕鯨船の生活を理解しなければ、万次郎を本当に理解したとは言えません。その理解を助けてくれる現存する唯一の捕鯨船が、このモーガン号です。

チャールズ・W・モーガンという出資者の名前をつけたこの木造捕鯨船は、フェアヘーブン対岸のニューベッドフォードの造船所で、1841年7月21日に進水しました。万次郎らの漂流民が、鳥島からホイットフィールド船長に救助されたのは、そのつい前月の6月27日のことです。また同じ年の1月には、のちに不朽の名作『白鯨』を書いたハーマン・メルヴィルが、アクシュネット号の新米捕鯨船員としてフェアヘーブンから船出しています。

モーガン号は進水したあと、秋には処女航海で太平洋に向かいました。翌1842年には万次郎を乗せたジョン・ハウランド号とメルヴィルのアクシュネット号、それにモーガン号は、そろって同じ時期に太平洋で鯨を追っていたのです。

19世紀半ばに最盛期を迎えた米捕鯨産業は、1859年に鯨油に代わる石油がペンシルベニア州で発見されると衰退に向かいますが、モーガン号の捕鯨航海は続きました。日本開国後は函館にも数回寄港しています。

そして1921年5月、モーガン号は最後の航海を終えてニューベッドフォードへ帰港しました。進水の後の80年間にわたる捕鯨航海は、合計37回でした。



モーガン号全景

米捕鯨史上最も「幸運な船」と呼ばれるようになったモーガン号を保存しようと、さまざまな試みがなされました。紆余曲折の上、結局1941年に、ニューベッドフォードからコネチカット州ミスチックにある「ミスチック・シーポート」という海洋博物館に移されて現在に至っています。

そしてここで約800万ドルをかけて、現存する唯一の木造捕鯨帆船として復元されたモーガン号が、この夏ニューイングランドのゆかりの港を訪ねる旅に出ました。短いながらモーガン号にとって38回目の航海です。

6月末から7月初めまで10日ほど寄港したニューベッドフォードを訪ねると、モーガン号の元の母港への歴史的な里帰りだということで、町中が歓迎行事で沸き立っていました。

寄稿「復元された唯一の捕鯨船チャールズ・W・モーガン号を訪ねて」

三本マストの帆を下ろして優雅な船体を休める岸壁には、乗船見学順番を待つ人たちの長い列が続いていました。

モーガン号は351重量トンで、長さ約34メートル、幅約8メートル。3本マストの真ん中のメインマストはほぼ船の長さと同じ33メートルもあります。このため、外観は船全体が大きく見えますが、船内は意外なほど手狭でした。

甲板の下の居住部分は、鯨油樽を貯蔵する船倉のスペースを大きくするために天井が低く、移動するのに体をかがめなければならないほどです。

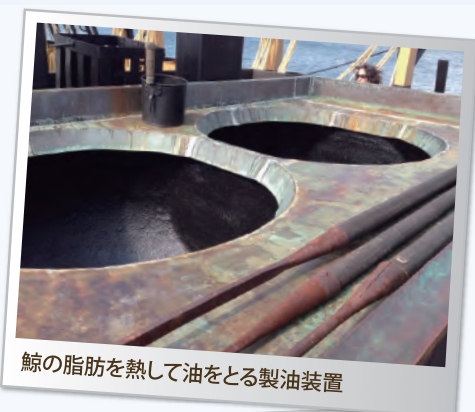
船の最後部にある船長室と上級船員の居住区はやや広めですが、最前部の一般船員の居住区は、寝返りを打つのも難しそうな二段ベッドがぎっしり並んでいるだけです。

捕鯨船の一番の特徴は、甲板の前部に作られたトライワークと呼ばれる製油装置です。レンガ作りの炉に大きな鍋が2つ置かれ、切り刻んだ鯨の脂肪部分を熱して油をとる簡単な仕掛けです。燃料は油を取ったあとの残りかすです。悪臭と共に黒い煙を上げて燃え、解体した鯨の血の臭いなども混ざって、耐え難いほどの臭さだったようです。このためか捕鯨航海を終えると母港に入る前に、乗組員がこのトライワークの装置を壊して海に投げ捨てるのがしきたりだったそうです。

「殺るか殺られるか」の死闘の末に鯨1頭をしとめたあと、解体して脂肪や骨を取り分け、鯨油を取って樽に詰めるという一連の作業を終えるのに、普通35人前後の乗組員が総出で、まる1日から2日かかったそうです。まずい塩漬けの肉や堅パンを食べながらの重労働でした。

19世紀なかばの最盛期には労働力不足で、捕鯨船には、さまざまな人種、宗教、信条の人間が乗り組んでいました。しかし捕鯨船の上でものをいうのは仕事ができるかどうかの能力の差で、他の差別は通用しません。違ったものが共存し共生せざるを得ない世界でした。

メルヴィルは『白鯨』の中で、新米捕鯨船員に「捕鯨船は私のエール大学であり、ハーバードだった」と言わせています。モーガン号を見学しながら、この言葉はきっと万次郎にも当てはまったに違いないと、改めて思いました。



鯨の脂肪を熱して油をとる製油装置



モーガン号の甲板



マストに登る船員たち



港にも多くの人が集まりました



狭いベッド

寄稿「万次郎と東一郎」

ジョン万次郎・江東の会 塚本 宏



石井菊次郎子爵

前号に引き続き、中濱万次郎の長男、東一郎を研究しておられる医学博士で元日本保険医学会会長／元明治生命厚生事業団理事長の塚本宏さんに寄稿してもらいました。

その②

「東一郎一家と戦前の日米草の根外交」

今回は、ジョン万次郎二代目の家父長として東一郎が戦前の日米外交に果たした貢献についてお話ししましょう。

東一郎は官民にわたる幅広い交友関係を築いていました。その中の一人に、外交官の長老、石井菊次郎子爵（1866-1945）がいます。外務大臣経験者で駐米大使を務め、戦前きっての親米家でありながら、東京大空襲で亡くなった悲劇の外交官でもありました。

1917(大正6)年12月、石井駐米特命全権大使の送別晩餐会が日本倶楽部で催されました。かねてから昵懇の間柄だった東一郎は、その席で彼からホイットフィールド船長の旧恩に感謝して、船長の郷里に記念の贈物をされては如何かと勧奨されます。即座に快諾した東一郎は、国際ジャーナリスト、刀剣の鑑定家の佐藤顕理に相談した結果、サムライの魂であり「名誉を尊び、高潔な人格、道徳的勇氣」を表す日本刀を贈呈品に決めました。

贈呈した日本刀は、5百年前の備前物「一文字助房」の名刀（ただし無銘）です。

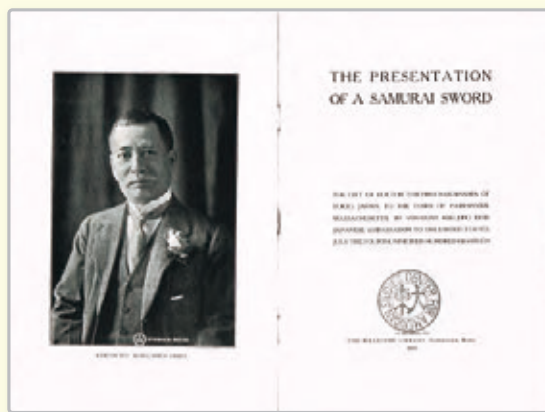
翌1918年7月4日の独立記念日当日、フェアヘブンで挙行された献呈式典には約1万人の市民が集まり、賑やかな「州祭」の様子だったと記録されています。

マサチューセッツ州・クーリッジ副知事（のちの第30代大統領）が歓迎の辞を演説し、万次郎は「米国が送った最初の大使」であり、「ペリー提督が日本へ派遣された時、彼のおかげで友誼に満ちた歓迎を受けた」と万次郎に対して最大の讃辞を述べました。

石井大使も日本を代表して、贈呈演説をされ、「この太刀の寄贈者（東一郎）は、善良なる船長の遺徳の記念だけでなく、日本国民の好意の表象として保有されるよう希望する」と結んでいます。

彼は、自分が万次郎の紀行を外交に利用して日米親善の一助にしようとした望みが達せられたことに満足しています（「外交随想」）。

つぎに、1924（大正13）年7月から、東一郎は約半年間、欧米の視察旅行に出かけます。ヨーロッパを廻った後、ニューヨーク



フェアヘブンへの刀寄贈式典プログラム

寄稿「万次郎と東一郎」その②

経由、プロヴィデンスのブラウン大学留学中の次男・清と落ち合って、フェアヘブンを訪問し、ホイットフィールド船長の2代目マーセラス、3代目トーマス（当時、町の行政委員でした）らと両家の友情を深めます。亡き船長の墓参はもちろん、紡績会社見学、フェアヘブン町有志の歓迎昼食会、ニューベッドフォードのアシュレー市長邸訪問など2泊3日の過密なスケジュールを消化しました。

この時、地元新聞社のインタビューに、東一郎は「フェアヘブンは第二の故郷です」と答えたのです。翌日、12歳の4代目ウィラードが自分の通うロジャー・スクールへ東一郎・清父子を招待し、全校を代表して、この言葉を誇りに思っている旨の歓迎の辞を述べて父子を喜ばせたのでした。ますます両家の絆が固く、深く結ばれた一コマでした。

さらに下って1932（昭和7）年、デーモン牧師の令息夫人から、かつて万次郎が咸臨丸の帰途、デーモン牧師に贈った日本刀の脇差（関兼房の作）が錆びているので修繕してほしい旨の依頼が飛び込んできます。

これを知った東一郎は直ちに、この刀剣の研磨修繕を引き受けました。親身に実務を担当したのは、三女・小寺綾子でした。幸い、岐阜県関町長・加茂悦平ら刃物技術者の協力で見事に修繕できたのです。当時のグルー駐日大使夫妻もこれをご覧になった上、これまた東一郎が「葵会」幹事だった縁で、徳川家達公爵揮毫の箱書までつけてハワイに戻されました。

翌昭和8年3月には、日本とハワイの名士大勢が出席した「汎太平洋クラブ」の午餐会で、盛大にお披露目されたのでした。

同じ、昭和8年7月のことですが、就任直後の第32代大統領ルーズベルトから突然、田園調布の東一郎あてに親書が舞い込みます。実は、その年の5月、石井特命全権大使（倫敦経済会議の日本代表）がホワイトハウスで大統領に会った際、万次郎のことが話し合われ、2代目・東一郎の消息が伝わったからです。

大統領の祖父から万次郎の話が聞かされたこと、自分もフェアヘブンをたびたび訪問したことなど、個人的な日米友好の歴史的事実を尊重

しようとする気持ちが伝わってくる手紙でした。

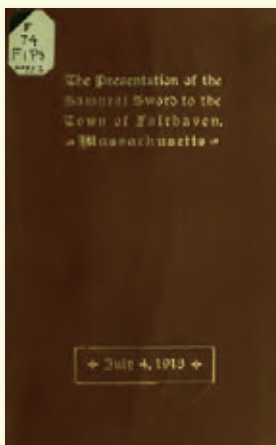
もちろん、東一郎はアメリカ大使館にお礼訪問をし、大統領へも礼状を書いて、大統領とは細い糸で繋がっています。

いよいよ、先の大戦勃発間近の1940（昭和15）年になって、残念ながら東一郎の没後でしたが、成人した4代目・ウィラードが母、大叔母と一緒に来日されます。東一郎夫人・芳子、清夫妻らは、一家を挙げて歓迎しました。雛人形の飾られた自宅に招いたり、帝国ホテルでの歓迎晩餐会を催したのでした。グルー駐日大使夫妻も出席されて百年も続いた両家の友情をたたえるスピーチをされました。

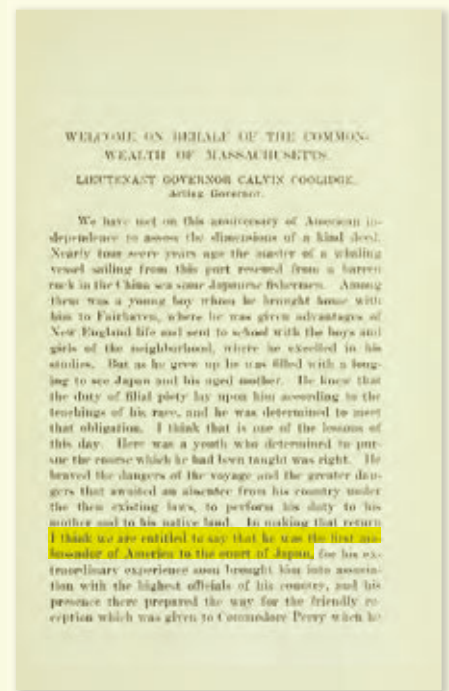
参加者全員の願いは一つ、日米両国の親善、平和でしたが、ささやかな草の根交流による最後の努力も虚しく水泡に帰したのでした。歴史に残る貴重な教訓ではないでしょうか。



デーモン家に贈られた脇差



刀寄贈式プログラムの表紙



カルビン・クーリッジの演説文

協賛企業訪問シリーズ



第3回「株式会社 永谷園」

協賛企業訪問シリーズ第3回目は、2002年からCIEをご支援いただいている株式会社永谷園です。お茶づけ海苔やあさげなどの即席みそ汁など、同社の商品は日本のほとんどのご家庭にあるのではないのでしょうか。意外に知られていない同社の歴史、商品開発に絡めた社会貢献活動など、興味深いお話を広報室長の石井智子さんに伺いました。



お話を伺った広報室長の石井智子さん

江戸時代に遡る歴史



京都・宇治田原町の茶宗明神

永谷園は、1953（昭和28）年に永谷嘉男（よしお、1923 - 2005）が創業して本年で62年目を迎えました。永谷園の由来は、今から約280年前の江戸時代まで遡ります。

創業者である永谷嘉男の先祖にあたる永谷宗七郎は、茶どころの京都の宇治に1680年に生まれました。当時のお茶は、手間暇かけてつくられた抹茶で、上流階級の飲み物であり、庶民は決して口にすることはできないものでした。そうした中、宗七郎は「一般大衆向けに、天日干しの露天栽培で美味しいお茶をつくりたい」と、試行錯誤を繰り返しながら、15年の歳月をかけて煎茶をつくる製法を編み出します。これは、茶葉を焙煎（ほいろ）に架した助炭の上で揉みながら、一定の速さで乾燥を進める方法で、できあがった製品は「青製（あおせい）煎茶」あるいは「宇治製煎茶」と呼ばれるようになりました。適度の渋み、苦みに旨みと甘みが調和した煎茶の誕生です。1738年、宗七郎58歳の時でした。彼は、この新製品を引っ提げて江戸に向かいました。江戸では、日本橋の茶商・山本家（現在の山本山）が宗七郎が作った茶葉の品質を高く評価し「天下一」の名前で販売したところ、江戸町民の間に爆発的に広まったそうです。宗七郎はその後出家して宗円と名を変え、98歳で亡くなりましたが、没後、宇治湯屋谷にお茶の神様「茶宗明神」として祀られています。

永谷園創業

明治時代の後期、宗七郎から数えて8代目の永谷延之助が東京の芝愛宕町（現在の東京都港区西新橋）に茶舗「永谷園」をかまえました。続く9代目の永谷武蔵（たけぞう、1897 - 1977）は大変なアイデアマンで、昆布茶、粉末シロップ、ふりかけ、アイスグリーンティー等、さまざまな商品を開発しました。中でもヒット作は「お茶づけ海苔」の前身となる「海苔茶」でした。

しかしながら、第二次世界大戦が始まり、武蔵の長男の嘉男は出征。店舗は空襲で焼失し、永谷園はいったん看板を下ろしました。

1946年に復員した嘉男は、焼け野原にバラックを建て、永谷家の



創業者・永谷嘉男氏



創業者の父でアイデアマンの永谷武蔵氏

再興を期してさまざまな商売を始めました。そうして得た資金で、元の芝愛宕に家を立て、疎開していた家族を呼び寄せ茶舗を再開しました。しかし、茶の販売だけではなく、父とともにさまざまな商品開発に打ち込み、店頭で販売しました。その中から生まれたのが「お茶づけ海苔」です。武蔵と嘉男の共同作業で生まれた「お茶づけ海苔」の発売は1952年。その翌年に、この「お茶づけ海苔」を本格的に製造販売するため、嘉男が社長、武蔵が会長となり、「株式会社永谷園本舗」を設立しました。

ロングセラーのお茶づけ海苔



商品開発と社会貢献

それから61年、おかげさまで本年発売50周年を迎える「松茸の味お吸いもの」「あさげ」「ゆうげ」「すし太郎」「おとなのふりかけ」「麻婆春雨」「煮込みラーメン」などのロングセラー商品をはじめ、最近では健康志向に対応した「1杯でしじみ70個分のちから」シリーズ、生姜を使った「冷え知らずさんの生姜」シリーズをはじめ、300品目以上の商品を製造販売いたしております。



話題になった「ただいまお茶づけ中」のCM



食物アレルギー配慮商品の検査風景

また、1982年から続く日本食糧新聞社主催「食品ヒット大賞」では、「食品ヒット大賞」1回、「優秀ヒット賞」15回、「ロングセラー賞」4回と合計20回の受賞をしております。弊社では、2002年の食品衛生法改正による「アレルギー物質を含む原材料表示の義務化」の1年前から、「食物アレルギー配慮商品」の開発を始めました。商品開発における原材料の選定や、生産過程でのアレルギー物質のコンタミネーション（微量混入）防止は大変難しいものでしたが、担当者の熱意と努力で商品化に成功。キャラクターを使用したレトルトカレーを発売しました。

しかしながら、市場が小さく、コンタミネーションのリスクもあり、コスト面から一時は販売継続の危機もありましたが、継続の決めてとなったのは、こうした商品を待ち望んでいたお客様の声でした。当時の永谷栄一郎社長（現会長）からは「こうした商品を本当に必要とし支持して下さるお客様がいる限り、永谷園にできる企業の社会貢献として販売を続ける。当然、特定原材料不使用でも『味ひとすじ』の理念に恥じないおいしい商品を作ること」というメッセージが発信されました。ここから本格的なチャレンジが始まり、2003年5月には研究開発、品質管理、営業、広報などの社内を横断する組織「A-FREE（エー・フリー）委員会」が発足しました。「A」は、アレルギーの「A」で、私も現在この委員会のメンバーです。同年9月には、自社ブランド「エーラベル（A-Label）」シリーズの販売を開始。「食物アレルギー配慮商品」として、卵、乳、小麦、大豆、落花生、そばを不使用とし、加えて香料・着色料・化学調味料・牛関連原材料を使わないという商品です。

ふりかけはコンタミネーションを防ぐために陽圧化という、気圧を高く保つことで外気の侵入をシャットアウトする専用の作業所「A-Label 室」で、またレトルトカレーも専用ラインで生産を行っています。専用の作業着と靴を着用した専任作業員が行っており、作業に関係ない人は入室できません。清掃も通常商品とは異なるマニュアルに基づき、実施後にはチェック表で確認して記録をつけるなど徹底して行っています。おかげさまで、アレルギーを持つ小さなお子さんやお孫さんを持つ方々から好評を得ています。また、ふりかけ商品ではお客様からの声を反映しこれまで入っていた「ごま」を除いた商品にリニューアルするなど、弊社の企業理念「味ひとすじ 永谷園」は、創業者の永谷嘉男のお茶づけ海苔にかけた思いと、創意と工夫でお客さまにおいしさを提供し続けるという企業姿勢を表現したものです。これからも常に新しい価値を創造し皆様の食卓においしさをお届けするべく取り組んでまいります。

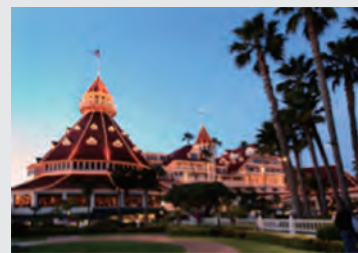


現在人気の妖怪ウォッチカレー

事務局だより

サンディエゴこぼれ話

日米草の根交流サミット2014サンディエゴ大会には、6つのテーマ別分科会と、東北から参加する中学生グループのための特別分科会に加え、1つの地域分科会が準備されています。



この地域分科会の開催地はコロナドです。

コロナドは、サンディエゴ湾に浮かぶ島のように見えて、実は南側が砂洲でつながった半島です。この美しいコロナドに、歴史建造物に指定されている赤い三角屋根の「ホテル・デル・コロナド」があります。

あまり知られていませんが、このホテルは、1931年にイギリスのエドワード王子が宿泊。その時に、出あったアメリカ人女性、ウォレス・シンプソン夫人と、その後世紀の恋に陥ることになります。

シンプソン夫人はすでに離婚歴があり、エドワード王子と知合った時は2度目の結婚生活をおくっていました。しかし、夫人はエドワード王子に一目ぼれ。また、プレイボーイの名をはせていたエドワード王子も彼女を愛するようになります。イングランド国教会では離婚は禁じられているにもかかわらず、エドワードは無理に夫人を離婚させて妃として迎え入れようとします。そして、夫人はシンプソン氏の不貞を理由についに離婚。こうした行為は、将来国教会首長兼務の連合王国国王となるプリンス・オブ・ウェールズとしての立場上許されることではなく、身分を問わず国民大多数がこの交際と将来の成婚に反発しました。エドワードは1936年1月に王位につきますが、同年の12月には退位を表明。在位期間は1年にも満たないものでした。



マスコミからの大バッシングの中、1937年に二人は結婚。結婚式には、イギリス王室からも政府からも誰の出席もありませんでした。

エドワード8世は、ウィンザー公の称号を与えられましたが、王室の怒りをかった二人は、フランスやバハマなどで生活。ウォレスがバッキンガム宮殿に滞在したのは、エドワードが亡くなった時が始めてでした。

この二人の恋については、歌手で監督の Madonna が2011年に「ウォレスとエドワード 英国王冠をかけた恋」という映画を製作しています。また、宝塚歌劇団月組も「エドワード8世—王冠を賭けた恋—」を公演しています。

平成25年度寄附協賛企業一覧 (50音順)



イオン株式会社



NTTコミュニケーションズ株式会社



キッコーマン株式会社



株式会社ジェイテクト



全日本空輸株式会社



ダイキン工業株式会社



株式会社大庄



株式会社デンソー



トヨタ自動車株式会社



株式会社豊田自動織機



豊田通商株式会社



株式会社永谷園



株式会社ニフコ



日本郵船株式会社



日野自動車株式会社



三井住友海上火災保険株式会社



三菱商事株式会社



三菱食品株式会社



明治安田生命保険相互会社

アイシン精機株式会社／愛知製鋼株式会社／アサヒグループホールディングス株式会社／東京海上日動火災保険株式会社
豊田合成株式会社／トヨタファイナンシャルサービス株式会社／トヨタ紡織株式会社／パナソニック株式会社／矢崎総業株式会社